

喫煙と冠動脈疾患について

近年、我が国では喫煙する人の割合は年々低下しており、平成元年が男性55.3%、女性9.4%だったのに対して令和元年では男性27.1%、女性7.6%となっています。喫煙によりさまざまな病気のリスクが上昇することが知られていますが、冠動脈疾患もその一つです。今回は喫煙と冠動脈疾患の関係についてです。

●冠動脈とは？

冠動脈は心臓の筋肉（心筋）に血液を送るための血管です。心臓は全身に血液を送り出すポンプの役割を果たしていますが、心臓自体も働くために血液が必要です。冠動脈は心臓に巻き付くように通った血管であり、冠のように見えることからこの名称がついています。

●冠動脈疾患とは？

心臓に血液を送る冠動脈が狭くなったり、つまってしまうことで血液の流れが悪くなり、心臓の機能に障害が起きてしまう病気を冠動脈疾患といいます。虚血性心疾患とも呼び、**狭心症**や**心筋梗塞**という病態が該当します。狭心症や心筋梗塞になると専門的な治療が必要であり、冠動脈のつまりを予防するお薬を生涯飲み続けなければならないこともあります。

●喫煙と冠動脈疾患の関係

タバコの煙にはニコチン、一酸化炭素、活性酸素などの物質が含まれています。それらの物質は、心臓の機能に悪影響をおよぼしたり、動脈の炎症や硬化を引き起こし、また血栓の形成にもつながります。それらが相互に関連することで、冠動脈疾患および心臓や脳血管の疾患のリスクを上昇させることに結びついていきます。非喫煙者のリスクを1とした場合、1日1本の喫煙でも冠動脈疾患のリスクは1.65倍に増加するといわれています。ま

た、自分が喫煙していない場合でも、身近な人の喫煙により副流煙を吸ってしまうと受動喫煙により冠動脈疾患のリスクが高まるとされるため注意が必要です。

●禁煙の効果

喫煙は冠動脈疾患のリスクを上昇させてしまいますが、禁煙することでそのリスクを減少させることが可能です。完全な禁煙を達成できた場合、喫煙を継続した場合と比べてそのリスクは 4～5 割ほど減少するといわれており、禁煙が健康の管理、維持に大切であることがわかります。

●禁煙外来

禁煙の意思があるが、どうしても禁煙できない人や、禁煙を成功させたいという人に対し、医師が禁煙指導を行っているのが「禁煙外来」です。禁煙外来では、ニコチン依存症の有無を調べて、ニコチン依存症の治療薬を投与するとともに、タバコが吸いたくなったときの対処法など、一人ひとりの状況に合わせたアドバイスを受けることができます。

禁煙についてお悩みの方は主治医にご相談ください。

～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～

